

令和5年度



唐桑中学校

校長室だより No.11

令和6年3月6日発行

二星



学校 HP はコチラ

校舎前の梅の花に未来を描く

三寒四温の言葉のとおり、春はゆっくりと近づいています。校舎前にある梅の花は、2月中旬の突然の温かさに驚いた様子で、早くも満開となりました。しかし、その後のあまりの寒さに凍えてしまい、路頭に迷っているようにも見えます。

咲くべき時節を間違えた花の気持ちを想像すると、本当にかわいそうです。花を咲かせた目的であるはずの、頼りにしている虫たちは飛んでおらず、もう一度咲き直すことも難しい。

「引きこもり146万人」

昭和から平成にかけ、Society3.0の工業社会の価値観の中、集団に適應できなかった人は、この梅の花のように悲しい思いをしたはずです。

咲く時期を間違ったり、せっかく咲いたのに周りから認められなかったり。周りは咲いてしまったのに自分は咲いていないから、もう咲けないんだと諦めてしまったり。

周りと合わせることが求められ、休むことさえ許されない風潮もありました。世の中は競争に明け暮れ、自分と周りと比較し続けなければならなかった時代。孤独と悲しみを感じた人が、その後の人生の可能性すら諦めてしまったような時代。

学校は今も昔も社会の縮図。思い起こせば昔の学校も、Society3.0の価値観に覆われていました。整理するという動作が難しいお子さんを、無理に並ばせようと強制したり、LGBT等への理解もなかったため、制服を性別で強要したりしていました。部活動も入部は義務。所属しないことは認められず、常に優勝を目指して休みもほとんどないまま取り組みました。学校に登校できないお子さ

んに対しても「登校を促すべき」と指導され、心のエネルギー充填もできないままに学校も家庭もお子さんも疲れ切ってしまい、本当に辛い思いをした人が多かった。

今、日本には146万人の引きこもりがいるそうです。そんな中、学校も社会も過渡期にあるとも感じています。

もし、早く咲いてしまった梅の花がひとりぼっちでいたなら、孤独で苦しいだけです。でも、実は梅の花は来年も咲くことができる。梅には再来年もあり、更にその先も、何十年もの未来が待っている。確かに今はかわいそうだけれども、それだけで終わってはならない。今の悲しみを、未来を描く力に変えなければならない。そんなとき、周りからの言葉がけが大切になると考えています。

「そうか、早く咲いたんだね。辛くて悲しいね。私はこう考えるよ。君はだれよりも早く咲いたから経験できたことがある。見えた景色がある。感じた思いがある。来年また咲くときに、早く咲いた花の気持ちが分かるようになるね。その花の気持ちに寄り添えるようになったね。今年の今の悲しい気持ちを次に生かしていけるように、これからどうすればいいか、一緒に考えてみようか。」

「新しい時代をともに描く」

今、学校も保護者も生徒も、そして社会も、古い価値観から脱していくことが求められていると思います。比較や諦めではなく、ともに悩み、ともに歩む相手の存在が、今の世の中では必要であると考えています。解決はできなくとも、相手を受け

止め、一緒に歩めることで、自分の可能性、これから進むべき未来に気付ける機会を得られる。

先日、本校で行った「3年生を送る会」は、生徒による立案で企画しました。1. 2年生が3年生を想って創った「自分たちの行事」です。今の3年生も、学校行事の多くを自分たちで企画し、実現してきた自慢の生徒たち。そして支えた先生方。

3年生を送る会で、最後に述べた3年生からのお礼の言葉を紹介します。

「本日はこのような素晴らしい会を開いてくださり、ありがとうございました。3年生は、今日の3年生を送る会をととても楽しみにしていたのですが、その期待に届えてくれる、いえ、私たちの想像以上、そんな会でした。

さて、私たちはもうすぐ卒業し、皆さんも春から学年が1つ上がり、上級生になります。今日の会を通して、私は皆さんなら来年度もこれからも頑張れるのではないかと感じました。とても期待しています。あらためて、今日はありがとうございました。」

「本日はこのような会を開いていただき、ありがとうございました。準備期間がテスト期間に被っていたにも関わらず、ここまでの会を企画できるのは生徒会を中心とした1. 2年生が自分たちで時間を見つけ、計画することができたからだと思います。

『今しかできないことは今しかできない。』

私がこの頃大切にしている言葉です。勉強など、しなければならぬことを後回しにして何か別のことをしてしまう、この中にも当てはまる人がいると思います。私も正直、1. 2年生の頃はほぼ勉強をしていませんでした。しかし、今もし1年生に戻れるのなら、しっかり勉強したい。部活動も同じです。どんなに練習がきつなくても中3になればもう一度部活動をしたい、そう思います。どんなに面倒くさいことでも今しかできないことは今しかできない。どうか今

しかできないことを全力で頑張ってください。○○くん、頑張れよ。」

「今日は私たちのために3年生を送る会を開いていただき、ありがとうございました。とても楽しませていただきました。私たちは16人と少ない人数でしたが、だからこそ、できたことがたくさんありました。昨年度よりも他の学年と協力して活動したり、交流する機会が増えたりしたことも、とてもうれしかったです。

去年は3年生を送る側でしたが、今日、送られる側になり、1年がとても早く感じられました。1年生の皆さん、来年度は後輩ができますね。勉強もより難しくなると思いますが、3年生をサポートしながら、1年生を引っ張ってください。2年生の皆さんは、いよいよ3年生になりますね。3年間は本当にあっという間です。1. 2年生をリードしながらも、ぜひ、自分たちの唐桑中学校をつくってってください。そして、最後の1年を全力で楽しんでください。本日は本当にありがとうございました。」

**「早く咲いた花は確かにかわいいそうだが、
その存在自体は未来を創る力そのもの」**

3年生から感じるもの。それは「比較することなく、諦めることなく、相手の心遣いに感謝し、その過程をねぎらって努力を認め、これから訪れる未来を相手に描かせる力」です。

3年生が発した言葉を読んでいると、今の大人たちが、現在の子供たちから学ぶべきことは本当に多いと気付きます。私たち大人も、子供たちと共に未来に向かって歩まなければなりません。

1. 2年生、3年生から素晴らしい心を受け取ってくれてありがとう。3年生、本当にお疲れさまでした。君たちの咲かせた花は最高に美しかった。そして「万里一空」を大事にしてほしい。

これから未来で咲かせるひとつひとつの君たちの花を、心から楽しみにしています。